

2011年4月19日

厚幌ダム建設事業地域代表者会議

座長 藤間 聡 様

(社)北海道自然保護協会 会長 佐藤 謙

平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男

自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子

十勝自然保護協会 共同代表 安藤御史・佐藤与志松・松田まゆみ

北海道自然保護連合 代表 寺島一男

苫小牧の自然を守る会 代表 舘崎やよい

ユウパニコザクラの会 代表 藤井純一

イテキ・ウエンダム・シサムの会 代表 佐々木義治

胆振日高高校退職教職員の会 代表 高橋 守

厚幌ダム計画に関する公開質問状

4月15日付けの新聞によりますと、第3回厚幌ダム建設事業地域代表者会議（以下、代表者会議）は厚幌ダム建設が最善であると正式に結論づけた、と報道されました。しかし、第一に、代表者会議に出された資料は具体的な検討を行う根拠としては非常に不足であり、第1回と第2回の議事録を見る限り、代表者会議における検証作業が明確な科学的根拠に基づいて行われたとは思われません。第二に、代表者会議において北海道の担当者が検証すべき項目と若干の内容を示し、いくつかの質問が出されましたが、ダム検証において重要なダム建設に批判的な意見は皆無でした。第三に、4月14日開催の第3回代表者会議の議題は「パブリックコメント等の意見報告、厚幌ダムの総合的な評価等」とされていますが、新聞報道を見る限り、この議題について議論されなかったと推測されます。そうであれば、パブリックコメントは何のために行ったのでしょうか？あるいは、代表者会議においてパブリックコメントについてどのような論議がなされたのでしょうか。

貴職は、代表者会議に学識経験者として参加され座長になられております。厚幌ダムの建設事業費は、総額360億円、そのうち北海道負担が160億円に及び、多額の国税と道税を使う事業です。そのため、代表者会議は、ダムの目的、必要性や効果について明確な科学的根拠に基づき明解な検証を真摯に論議しなければなりません。今、福島第一原子力発電所が大問題となっておりますが、そこでは、古くから指摘されてきた最悪の事態を想定した批判的意見に真摯に向き合わず、

それを無視してきた学識経験者の態度が大きな問題とされています。そこで、学識経験者かつ座長である貴職に対して、以下の質問を公開して行いますので、明解な科学的根拠を伴う真摯なご回答をお願いいたします。ご回答は、遅くとも5月16日までに、事務局を担当している北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel: 011-251-5465、FAX: 011-211-8465）宛に、文書によっていただけますよう、宜しくお願いいたします。

記

1. 治水問題

治水においては、洪水を防ぐため、予想される河川の水量（目標流量）に対して河川の堤防その他の状況を検討して、もっとも妥当な方策を検討することが求められています。そのためには、目標流量をどのようにするのか、その場合の河川の水位や堤防高さらに計画高水位の関係が示された上で、治水方策が検討されます。

しかし、代表者会議に出された資料にはこれらのことはほとんど示されていません。目標流量は示されていますが、過去の洪水の実績からの検討が示されていません。2002年に出された厚真川水系河川整備計画では、計画高水位と計画築堤高しか示されておらず、目標流量の時の水位や、現在の堤防高は示されていません。過去の実績などから推定される目標流量が、計画高水位よりある程度低ければ、堤防の強化で水害を防ぐことができます。他方、目標流量が計画高水位より高ければ、ダム、河川改修、その他の方策が検討されることとなります。しかし、厚真川河川整備計画では、過去の実績などを踏まえた目標流量の決定および目標流量の水位が示されていません。以上の状況では、基本的な論議ができないことが明白です。

過去の実績について私たちが北海道に問い合わせたところ、北海道から「過去最大の降雨量は昭和56年8月に観測、上流の広い範囲において河川が氾濫したため最大流量は測定できておりません。・・・平成13年9月の氾濫は下流の上厚真地区では主に内水、上流の富里地区等では主に外水によるもので、面積比では内水約50%、外水約50%」という回答が寄せられました。私たちは、このうち、外水については堤防強化、河川改修、ダム案などが検討されるべきであり、内水については排水機場の設置を検討すべきと考えています。このように、実際の水害実績に即して緻密な検討が必要ですが、代表者会議においてそのような検討がなされたのかどうか疑問です。

貴職は、座長として、また学識経験者として、ダム案が最善という結論を認めた根拠について、上記の私たちの意見も含めてご回答をお願いいたします。

2. 灌漑用水

厚幌ダム計画のすぐ上流にある厚真ダム（貯水容量952万 m^3 ）は、灌漑用水（最大取水量9,992 m^3 /秒）を主目的とした農業用ダムです。その下流に計画されている厚幌ダム（灌漑用水容量1,400万 m^3 ）は、最大取水予定量が12,663 m^3 /秒であり、取水量が26%だけしか多くないのに、既設

の厚真ダムを使わず、新たにダムを建設する必要があるのかどうか、疑問です。とくに農業人口が減少する傾向が強い中で、厚幌ダム建設が10年先、20年先を見通した計画といえるのか、疑問です。そこで灌漑用水について下記の点について検討されたのかどうか、検討されているならば、その結果をご回答ください。

2.1 厚真町の灌漑用水の将来についてのお考えをお示し下さい。

全国的にも、北海道でも、水田の作付け面積は減少傾向にあります。また、水を資源として有効に使用するため、水を大切に使う水管理技術が進んでいます。厚真町では、水田の作付け面積の将来をどのように見ており、また水を有効に活用するための水管理技術をどのように進めているのかについて、どのように認識されたのかご回答下さい。

2.2 灌漑用水量が増加するという点について、具体的な資料に基づく水量資料をお示し下さい。

代表者会議の資料によれば、「農業の近代化に伴う代かき期の短縮や、低温による冷害の回避を目的とした深水管理に多量の水を必要としているため、厚幌ダムに新たな水源を求める」としています。しかし、具体的な資料や根拠が不明確なので、従来の灌漑用水量の実績と、代かき期の短縮と深水管理のために新たにどれだけの水量が必要なのか、具体的な根拠に基づく具体的な数量予測をお示し下さい。

2.3 厚幌ダム建設により渇水期の灌漑用水が増加できる根拠をお示し下さい。

厚真ダムに比べて貯水容量の大きい厚幌ダムの建設計画は、より多い水量を貯留することによって必要な灌漑用水を確保するという考えに基づいていると推定されます。しかし、下記の厚真町資料によれば、厚真ダムにおいて平成20年に2月28日から貯水を始めたが、水が十分溜まらなかったとのこと、したがって、渇水時には、厚真ダムに加えて厚幌ダムを建設したとしても、厚幌ダムに水が溜まらない事態が想定されます。代表者会議ではこの点について検討したのかどうか、ご回答ください。

○厚真町資料（厚真町産業経済課）：平成20年の厚真ダムは、昨年（平成19年）の2月28日から貯水を開始したが、冬期間の降雪量が少なく最低気温も上昇傾向であったため、取水開始の5月上旬までに満水とならなかった（有効貯水率90%）。このため、代掻期直後からの取水体制について考慮していたが、5月20日にダム地点で55mmの降雨量があり、ダム貯水量も同時期の平年並みに回復した。しかしその後、まとまった降雨もなく、6月14日から河川状況を見ながらダム取水量を減水していたが、7月7日頃から6区頭首工での河川水位が低下したため7月10日に管理区長会議を開催し、7月14日から2日毎の番水を開始し、7月23日までの10日間実施した。このような番水については、平成19年にも36日間実施され、水稻危険期の深水対応に苦慮しているところである。平成21年度についても、渇水が懸念される状況であり、洪水調節と農業用水のために厚幌ダムの早期完成を望んでいる

2.4 評価を見直すべきである。

代表者会議の検証結果を見ると、厚真ダム利用の場合は、約10mをかさ上げするための費用などが270億円、一方厚幌ダムの場合は49億円のため、厚幌ダム建設をプラス評価したということになっています。2.3で述べたように、灌漑用水の必要性は渇水時にあるので、その場合は現在の厚真ダムをかさ上げする必要はないと考えられます。したがって270億円が必要であるという根拠は乏しいと考えられますので、ご見解をお示し下さい。

3. 水道水

3.1 水需要予測の根拠が具体的に示されていません。

給水人口は、平成 29 (2017) 年に最大で 4,100 人となり、その後急速に減少して平成 46 (2034) 年に約 2,800 人となると予測されています。給水人口は 2017 年から 2034 年にかけて 1,300 人人口 (?) が減少するのに、一日最大給水量は、2017 年に 3,000 m^3 /日となり、それ以降減少しない予測となっています。なぜ人口が減少するのに給水量が減少しないのか、具体的な根拠に基づく資料が示されていませんので、お示ください。

3.2 厚幌ダムからの必要水量 1,630 m^3 /日は河川の流量と比較すれば、極めて少量 (18.8 ㊦/秒) なので、わざわざダム建設の水源を確保しなくても、河川や地下水から取水することができると考えられますが、この点についてご回答ください。

厚真川水系河川整備計画によれば、厚真大橋における昭和 45 年から平成 10 年の間の濁水流量は 0.81 m^3 /秒です。これは 810 ㊦/秒ですので、これと比べると厚幌ダムからの必要水量は 18.8 ㊦/秒なので、水道水のため取水してもほとんど影響がないと考えられます。したがって、河川水量に比べて極めて少量の水道水のためにダムが必要という根拠はないと考えるのが普通ですので、代表者会議の結論は極めて大きな欠陥をもつと考えます。この点についてのご見解をお示し下さい。

3.3 代替案の検討が不十分です。

厚幌ダム建設事業の検証に係る検証資料には、多目的ダム (厚幌ダム) やその他の対策案の費用に関する評価結果が載せられています。50 年分の維持管理費用も含めて、ダム案：13 億円、貯水池：15 億円、地下水：22 億円であるため、ダム案が最適としています。この費用計算は水道水だけで計算していますが、ダム湖の水が富栄養化すると、水処理費が莫大になることは、すでに建設された道内のいくつかのダム湖で知られていますので、その点の検討が必要です。

一方、地下水については水質検査を行って適しているところから取水すれば、安定的かつダム水より上質な水道水を得ることができます。このような点を再検討すべきです。地下水については、浅井戸であるため水量を確保できるか、また水質が大丈夫かという不安材料を述べて、不採択となっています。しかし、根拠も示さず水量や水質の判断を述べるのは、科学的に真摯な対応ではありません。一般に、地下水はダム水に比べてずっとよい水質が保証されるものですので、再検討が必要です。また、地下水のための施設に 8 億円が必要であるという根拠も明らかにされていません。今回必要とされている 1,630 m^3 /日の水量は、上述したように 18.8 リットル/秒という少ない水量であるので、地下水のための施設に 8 億円必要であるという積算根拠を示すべきです。また、地下水取水を下流と決めて、そのため上流の浄水場へ水を輸送するのに経費がかかると述べていますが、下流で地下水を取水する根拠も示すべきです。これらについて検討されたかどうか、検討された場合にはその結果をご回答ください。

4. 流水の正常な機能維持について

4.1 ダム建設により流水の正常な機能維持をはかるということ自体が誤りである。

厚真川でも他の河川と同様に豊水年もあれば濁水年もあります。また季節変化も大きい。現在、

このような河川環境の中で適応して進化した生物が厚真川流域に生息しています。具体的には、検証資料に示されているように、上流にはエゾトヨミ、中流ではエゾウグイ、下流ではイバラトミヨ、サケ、シシャモなどです。これらは厚真川の河川環境に適応して現在にいたっています。厚真川にはサクラマスは報告されていませんが、多くの河川で夏季から秋季にかけて渇水の場合、サクラマスは淵で休息しており、いったん降雨があれば一気に遡上することはよく知られています。このような河川環境において、「流水の正常な機能維持が必要」と称してダム湖から水を流すことは、今までの環境を変え、生物の生息に悪影響を与えると危惧されますので、生物多様性重視の視点から大きな問題です。例えば、冬季は一般に渇水期ですが、そのときに水を流せば生物多様性や生態系に与える重大な悪影響が危惧されます。「流水の正常な機能維持が必要」とする考えは、河川法の主旨にも反した、生物多様性や生態系を知らない人がダム建設の理由として考えた屁理屈に思えます。

すでに厚真ダム建設によっておそらくダム下流の底質は泥化が一定程度進み、以前は生息していたサクラマスが見られない原因となっている事態が推測されます。さらに厚幌ダムを建設すれば、河川環境、とりわけ底質の泥化が進行し、サケなどの産卵環境が悪化することが懸念されます。現在までの国内外の経験ではダムによって河川環境がよくなることはあり得ず、流水の正常な機能維持も意味がないだけでなく、既述のように悪影響を与える場合が想定されます。この点についてのお考えをご回答ください。

4.2 流水の正常な機能維持を根拠として厚幌ダムの計画規模が肥大化するのはおかしい。

計画されている厚幌ダムは、有効貯水容量4,310万 m^3 、そのうち洪水調節容量が760万 m^3 (18%)、流水の正常な機能維持2,130万 m^3 (49%)、灌漑用水1,400万 m^3 (32%)、水道水20万 m^3 (0.5%)となっており、このダムは、その目的の半分が流水の正常な機能維持のために建設されるようとしています。4.1で述べたように流水の正常な機能維持のためにダムは必要ありません。その流水の正常な機能維持のために大きなダムを造ること、極めて大きな疑問です。貴職のご見解をお示し下さい。

以上